



頂

特集 - スポーツクライミング -

「東京2020オリンピック」から正式種目に選ばれたスポーツクライミング。
将来のトップアスリートを目指す姿を追いかけます。

全国有数の屋内クライミング施設

平成30年7月に新しく開設された「宇和島市スポーツ交流センター」。温水プールや体育館、クライミングホールが整備され、一般利用のほかに、スポーツに親しむための各教室などが行われています。

中でもクライミングホールは、高さ15mの室内クライミング壁を備えた全国でも有数の施設であり、冷暖房が整い天候を気にせずに練習に取り組めます。今年の7～8月にかけて開催される「東京2020オリンピック」では、スポーツクライミングが正式種目に認定されるなど、全

国的に注目が集まっています。

この施設では宇和島山岳会の協力のもと、小学生などを対象にしたスポーツクライミングの練習が行われています。身近にある好環境の設備を活用して、子どもたちは将来のトップアスリートを目指して練習に取り組んでいます。

スポーツクライミングは必要な準備物も少なく、手軽に始められます。子どもだけではなく、付き添いの親も一緒に楽しむなど家族連れでの利用も増えています。



スイミングやフィットネスなど、年代を問わずスポーツに親しむことができます。



※利用料金など詳しくは、ホームページをご覧ください。



▶ボルダリング

高さ5m以下の壁を登る競技。決められたホールドをつかみながら、身体のバランスを取って登ります。

オリンピックでは、決められたルートを制限時間内にいくつ登れるかを競います。



スポーツクライミング ってどんな競技？

「ボルダリング」「リード」「スピード」の3種目に分かれて競い合います。市スポーツ交流センターでは、リード、ボルダリングの2種目が体験できます。

【用語解説】

- ▶ホールド：壁に取り付けられ、さまざまな色や形をしたものがあります。
- ▶ルート：難易度ごとに設定された課題。使用できるホールドが決められ、テープなどで色分けされています。

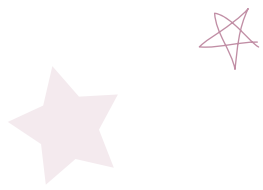
▶リード

身体にロープを結び、高さ12m以上の壁をどこまで高く登れるかを競います(経験者2人での利用が必要)。

▶スピード

高さ15mの壁を2人の選手が同時に登り、その早さを競います。

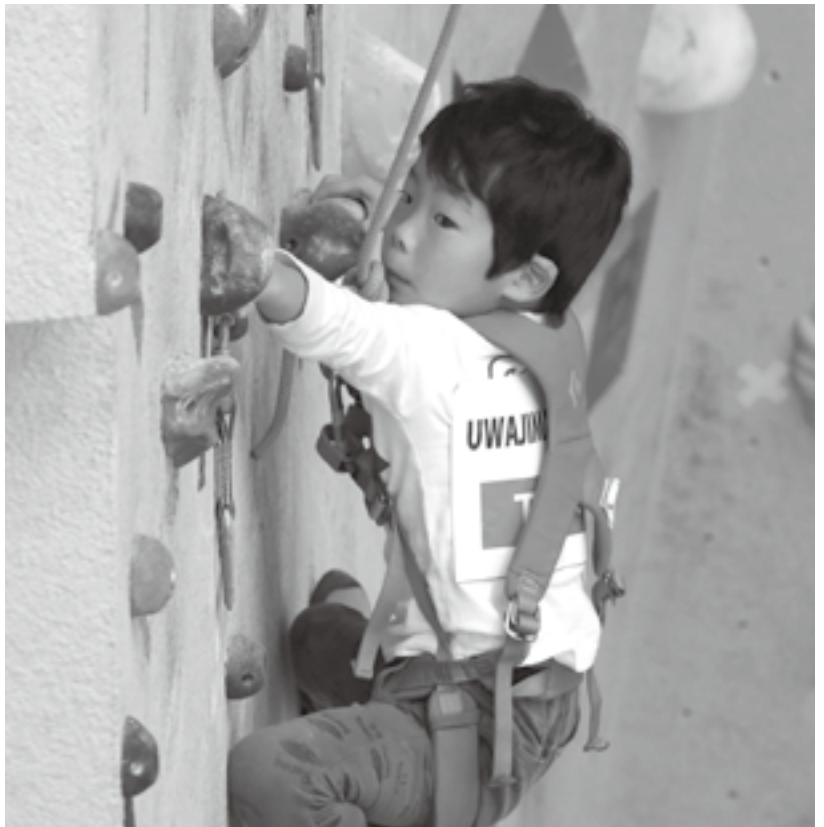




未来のトップアスリートを宇和島から



12月1日(日)に、市スポーツ交流センターで「リードコンペ第1回うわじまカップ」が開催されました。オリンピック競技さながらのクライミング壁を活用して、全国から集まった参加者がリード競技で競い合いました。





日本トップレベルを 体験

「リードコンペ 第1回うわじまカップ」は、宇和島山岳会が主催となり開催されました。この大会は「リード競技」で行われ、ジュニアやビギナーなど各分野に分かれて競い合いました。ルートの設定は、世界大会などの設定も担当し、競技者としても日本トップレベルの実力を誇る松島さんを中心に行われました。当日は、関西・中四国地方だけではなく、関東地方など全国から参加者が集まりました。

ジュニアの部では、クライミングクラブに所属する市内の子どもたちも多数参加しました。高さ15m先にあるゴールを目指して、普段の練習の成果を披露しました。まだまだスポーツクライミングを始めたばかりの子どもたちですが、日本トップレベルの選手と身近でふれ合ったり、全国の強い選手たちと競い合ったりするなど貴重な経験となりました。

Interview



トURREロープジュニアの部
木野本 さん

クライミング体験会を機に始めました。子どもが積極的にやりたいと言い始め、今では親子で楽しみながら続けています。

子どもは、高く登れたときの達成感が何より楽しいようです。まだまだ練習が必要ですが、将来のオリンピック選手目指して頑張っていきたいと話しています。



トURREロープ ジュニアの部
森川 さん

姉妹でこの大会に参加しました。クライミングは身体も頭も使い、楽しみながら体幹を鍛えることができます。

体幹が鍛えられることで、ほかのスポーツのレベルアップにも役立っていると感じます。身近でこういった大きな大会が開催され、県外の強い選手と競い合うなど子どもにはいい刺激になりました。



(公社)日本山岳会スポーツクライミング協会 松島 さん

スポーツクライミングは気温や湿度などに左右されやすいスポーツです。市スポーツ交流センターはその影響を気にせずに楽しむことができます。これは、この施設の大きな魅力でありうらやましく思います。

宇和島の皆さんには今回設定したルートを登って、どんどん強くなってほしいです。

叔

部活動の休部や廃部。
苦しい状況の中でも、切り拓いていく活路。
後輩に同じ思いをさせないために、
彼らは、ふたりで歩み始めた。



左：増原 さん、右：山中 さん



同好会発足

令和元年7月、県立津島高校に「スポーツクライミング同好会」が発足しました。同校では、生徒数の減少などから団体競技の部活動が休部となるが続いています。

このような状況の中で注目されたのが、個人競技の部活動でした。市スポーツ交流センターが完成したこともあり、スポーツクライミングの競技力強化を目指して生徒を募集。2年生の増原さんと山中さんが加入し、同好会としての活動が始まりました。

2人でもできること

増原さんがもともと所属していたソフトテニス部は、人数不足により昨年6月の大会を最後に休部になりました。「このまま部活動の数が減っていったらもうのでは」。不安を抱く増原さんのもとに部活動の設立に向けて声がかかり、友人の山中さんを誘って同好会を立ち上げました。2人は体育館に新設されたクライミング壁で練習するほか、週に2～3回は市スポーツ交流センターに

通い宇和島山岳会のアドバイスを受けながら練習に励んでいます。令和2年度には、県内で2校目となるスポーツクライミング部の設立を目指しています。

未来を拓く

現在の目標は、来年の国体予選に出場すること。県内では、東温高校に日本トップレベルの選手がいたり、「愛顔つなぐえひめ国体」を機に西条市の丹原高校がスポーツクライミング部を創設したりと、県内の状況に刺激を受けながら練習に取り組んでいます。

まだまだ競技をはじめたばかりの2人ですが、強みとしているのが「リード競技」の練習環境です。室内でリード競技の練習ができる設備が整っているのは、県内では本市だけです。「近場で練習できるこの強みを生かして、来年の国体予選に向けて練習していきたい。僕たちが活躍することで、今後の部活動が賑わうきっかけになると信じている」と語ってくれました。

宇和島からのトップアスリート誕生に期待！

新しい施設ができてからは、小学生以上の子どもたちがスポーツクライミングを楽しむ姿を多く見かけるようになりました。宇和島の子どもたちには、これから練習を続けてどんどん強くなってもらいたいです。

ただし、競技に夢中になりすぎて「楽しむ」ことを忘れてはいけません。登り切ったときの達成感を忘れず、楽しんで続けて欲しいと思います。



宇和島山岳会 橋本さん